

生徒指導の機能を生かした「道德の時間」の指導事例【中学校】

本事例は、人間としての基本的な権利について、生徒が身近な問題として理解することができるよう、道德の時間に、いじめにかかわる資料を活用して指導を行った事例です。指導に当たっては、自分の考えを率直に発言できるようにしたり、自分の意志で考えたり選択したりするなど生徒の主体性を発揮できるよう配慮しています。

ねらいと
する価値
の明確化

価値に関
する生徒
の実態把
握

第2学年道德学習指導案

(1) 主題名 正義を守る 内容項目：4-(4)公正公平

関連項目：3-(2)生命尊重 2-(2)人間愛

(2) 資料名 「いじめについて考える」(文部省道德教育推進指導資料)

(3) 主題設定の理由

本学級の生徒は、素直で明るく男女の仲もよいが、中学校生活に対する慣れから、面倒なことや嫌なことは他人任せにしたり、他者に対する批判や不満を攻撃的な言葉で口に出したりする場面も見られる。

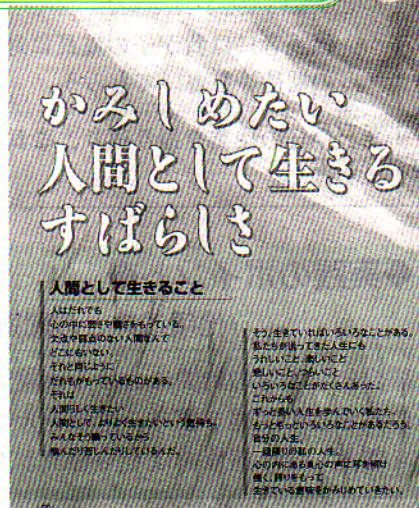
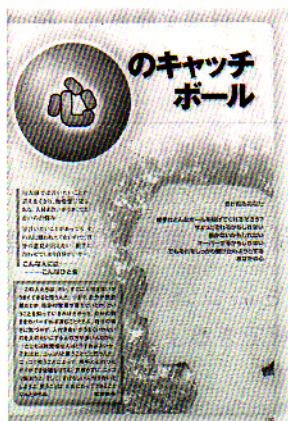
本単元では、いじめにかかわる資料にふれることにより、自らを深く見つめ、周囲に目を向けることのできる姿勢や、互いを支え合うことの大切さなどについて理解を深めるとともに、自分の学級に誇りをもち、規律ある学級生活を送ろうとする態度を育てたいと考え、本題を設定した。

(4) 指導上の留意点

- ① 生徒が自ら課題に取り組み、考え、道德的実践力を養うことができるよう生徒の主体的な活動を重視する。
- ② ねらいとする価値について、多角的に考えることができる資料を活用する。
- ③ 「心のノート」の活用を図る。

心のノ
ートの活用

- ・ P 58, 59 「コミュニケーションは心のキャッチボール」
- ・ P 70, 71 「かみしめたい 人間として生きるすばらしさ」
- ・ P 96, 97 「公正、公平な態度で差別や偏見のない社会を」



(5) 本時の指導

① 目標

弱い者をいじめることは人間として絶対に許されない行為であり、すべての人によりよく生きる権利があることについての理解を深める。

② 展開

	学習活動	主な発問 (○) と生徒の心の動き (・)	留意点
導入	1 いじめについて事前に実施したアンケート調査結果を知る。	○ アンケート調査の結果についてどんなことを感じましたか。 ・ みんながいじめのないことを望んでいる。 ・ いじめられた経験のある人がいて驚いた。 ・ いじめられたくないと思った。	・ 学級全体の傾向や特徴的な意見を知らせ、本時の価値への関心を高める。
展開	2 資料を読んでいじめられた経験のある人の思いを感じ取る。 3 加害者や傍観者の思いを考える。 4 いじめに立ち向かうことができた理由を話し合う。 5 いじめの問題をこれまでの自分の生活に当てはめて考える。	○ いじめられている人はどんな思いで毎日を過ごしているのでしょうか。 ・ 自分ではどうすることもできないことに悩んだり苦しんだりしている。 ・ 生きる希望を失って死を選ぶ人もいるかも知れない。 ○ いじめに加わったり、見て見ぬふりをしていた人たちはどんな気持ちだったと思いますか。 ・ 一緒にいじめていないと次は自分になるかも知れないと思っていた。 ・ 自分でなくてよかった。 ○ 協力していじめに立ち向かうことができたのはなぜか話し合ってみましょう。 ・ いじめは人間として許されないという強い心があった。 ・ 学級の仲間を思う温かく優しい心があった。 ○ 自分を含め、身の回りにいじめやいじめに近いことがなかったか考えてみましょう。 ・ 思い通りにならないことに対してみんな文句を言い続けたことがある。 ・ みんなが嫌がる仕事を押しつけられて困っていたのを見て見ぬふりをした。	・ いじめに遭っている人のやり場のない悲しさや恐怖を理解させる。 【共感的理解】 ・ いじめは人の心の醜さや弱さからエスカレートしていくことをおさえさせる。 【共感的理解】 ・ 自分の考えを大切に、互いの意見を認め合えるようにする。 【自己存在感】 ・ 自分を見つめ、他者に目を向けることで誰もがよりよく生きたいという願いをもっていることに気付かせる。 【自己決定】
終末	6 授業の感想を書く。	○ 今日の学習を振り返って感じたことや思ったことを書きましょう。	・ 「心のノート」P58,70,96を参考にさせる。 【自己決定】【自己存在感】

◆実践のポイント◆

生徒指導の機能を生かした指導の工夫

教師と生徒及び生徒同士の共感的な人間関係を大切にし、生徒一人一人に存在感を味わわせたり、自己決定を促したりするなど、道徳の時間の指導過程に生徒指導の機能を位置付け、道徳的实践力を一層高めるよう工夫しています。